

国内輸血例(事前配布からの更新点は赤字で表示)

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受理日	一般名	患者性別	年齢	原疾患	感染疾患	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	献血者種別	献血者種別NA	献血血液製剤	献血者	使用単位	献血者種別	同一献血者製剤	同一献血者製剤	感染疾患	結果	献血者種別及の場合の献血者検査項目(抗原抗体検査)	献血者種別及の場合の献血者			
輸血によるHAV感染報告例(疑い例を含む。)																										
隔転未確認事例																										
3-07025	A-06000249	2007/3/5	2007/3/15	人赤血球濃厚液 新鮮凍結人血漿	女	4M	心室中隔欠損、心室中隔欠損、血管疾患	A型肝炎	06/10-07/01 07/01	HA-Ab(-) (輸血開始後2ヶ月間)	HA-Ab(+) (07/02)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体10本についてHAV-NAT実施。 1本、HAV-RNA(-)、HA抗体(+) 9本、HAV-RNA(-)、HA抗体(-)			7単位 8単位				調査結果を受けて、担当医から副作用・感染症と輸血血液との因果関係なしと考える。FFP投与による移行抗体の一部と考えられる、との見解が得られた。	8本の原料血漿、4本の新鮮凍結血漿、6本の血球MAPを製造。原料血漿は4本確保済み。	原料血漿は2本使用済み。 新鮮凍結血漿、赤血球MAPは全て医療機関へ供給済み。	非重症	軽快		
輸血によるHBV感染報告例(疑い例を含む。)																										
供血者陽性事例																										
3-07011	A-06000224	2007/2/6	2007/2/21	人赤血球濃厚液(放射線照射)	女	50	消化器疾患	B型肝炎	06/09	HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (06-09) 検体量不足のため検査不能	HBsAg(+) HBsAb(-) HBsAb(+) IgM+HBcAb(+) (07-02) HBsAg(+) HBsAb(-) HBsAb(+) IgM+HBcAb(+) HBV-DNA(+) (07/02)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体1本 HBV-NAT(+), 1本 HBV-NAT(-)			4単位	1/2			2本の原料血漿を製造し、全て確保済み。 (原料血漿の1本は、陽性となった当該輸血用血液と同一採血番号の製剤)		非重症	未回復			
過転事例																										
3-06187	A-06000203	2006/12/21	2006/12/28	人赤血球濃厚液(放射線照射) 新鮮凍結人血漿	女	70	消化器腫瘍	B型肝炎	06/10 06/10	HBsAg(-) (06/09) HBsAg(-) HBsAb(+) HBcAb(+) HBV-DNA(-) (06/10)	HBsAg(+) HBsAg(+) HBsAb(+) HBsAb(+) HBsAg(-) HBsAb(+) HBcAb(-) HBV-DNA(-) (06/12)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体2本についてHBV-NAT(-)		2単位 2単位	1/2			1本の原料血漿、2本の新鮮凍結血漿、1本の赤血球MAPを製造。新鮮凍結血漿は全て確保済み。	原料血漿は使用済み。赤血球MAPは医療機関へ供給済み。	中等度	不明				
3-06188	A-06000204	2006/12/28	2007/1/5	人赤血球濃厚液 新鮮凍結人血漿 人血小坂濃厚液(放射線照射)	女	30	産科出血、低髄鞘脳症	B型肝炎	06/11 06/11 06/11	HBsAg(-) HBsAb(-) HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) HBV-DNA(-) (06/11)	HBsAg(+) HBsAg(+) HBsAb(-) HBsAb(-) HBsAg(-) HBsAb(+) IgM+HBcAb(+) HBV-DNA(-) (06/11) HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) HBV-DNA(-) (06/12)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体43本についてHBV-NAT(-)		56単位 60単位 40単位	8/43			34本の原料血漿、9本の新鮮凍結血漿を製造。原料血漿、新鮮凍結血漿は全て確保済み。		中等度	未回復				
3-06189	A-06000206	2006/12/27	2007/1/10	人赤血球濃厚液	女	60	腎疾患、自己免疫疾患、代謝異常疾患	B型肝炎	06/05-06	HBsAg(-) (06/05) HBV-DNA(+) (06/05)	HBsAg(+) HBsAg(+) HBsAb(-) HBsAb(+) HBV-DNA(+) (06/12)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体3本についてHBV-NAT(-) <追加> 保管検体8本についてHBV-NAT(-)		6単位	2007/2/3 <追加> 4/8 (HBV関連検査陽性)		担当医が疑念8本を追加	1本の新鮮凍結血漿を製造し、原料血漿は1本確保済み。新鮮凍結血漿は全て確保済み。	原料血漿は2本使用済み。<追加>原料血漿は全て使用済み。新鮮凍結血漿は全て医療機関へ供給済み。	軽微	未回復				
3-06190	A-06000207	2006/12/27	2007/1/10	人血小坂濃厚液(放射線照射)	男	60	骨髄瘤	B型肝炎	06/07-09	HBsAg(-) (06/04) HBsAb(-) HBcAb(-) HBV-DNA(+) (06/07)	HBsAg(+) HBsAg(+) HBsAb(-) HBsAb(+) IgM+HBcAb(+) (06/12) HBsAg(+) HBsAb(-) HBsAb(+) HBV-DNA(+) (06/12)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体3本についてHBV-NAT(-)		30単位	2/3			担当医より副作用・感染症と輸血血液との因果関係なしと考える。HBVについては今回の一連の輸血による感染ではなく、もともとキャリアーであり、ごくわずかに存在していたウイルスが、協力的な抗感染治療により再活性化されたものと考えられる」とのコメントあり。	3本の原料血漿を製造し、全て確保済み。		重症	未回復(肝不全に死亡) 創傷(肝萎縮、腹水貯留、その他合併したと認められる)と認められた真原因は不明			
3-06191	A-06000208	2006/12/27	2007/1/10	人赤血球濃厚液(放射線照射)	男	90	骨折	B型肝炎	06/04	HBsAg(-) (06/04) HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(+) HBV-DNA(+) (06/04)	HBsAg(+) HBsAb(-) HBsAb(+) HBsAg(-) HBV-DNA(+) (06/12) HBsAg(+) HBsAb(-) HBsAb(+) HBV-DNA(+) (06/12)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体2本についてHBV-NAT(-)		3単位	2/2 (1人はHBV関連検査陽性、1人はHBsAb(+), HBcAb(+)) 当該輸血時と同検体であった		担当医より副作用・感染症と輸血血液との因果関係なしと考える。B型肝炎の輸血後感染を疑ったが、患者の血液、輸血のB型肝炎ウイルス検査の結果、既感染であったことが明らかになった」とのコメントあり。	1本の原料血漿、2本の新鮮凍結血漿を製造。原料血漿は確保済み。新鮮凍結血漿は1本確保済み。	新鮮凍結血漿は1本医療機関へ供給済み。	中等度	未回復				

国内輸血例(事前配布からの更新点は赤字で表示)

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受付日	一般名	患者性別	年齢	原疾患	感染症名	採年月	採前検査(年月)	採後検査(年月)	受血者種別	献血者種別NAT	併用血液製剤	備考	使用量	献血者再献血	同一献血者製剤	同一献血者製剤	感染症等	経過	献血者共通の場合の献血者検査機関(抗原抗体NAT)検査結果	献血者共通の場合の献血者検査結果	
3-07016	A-06000229	2007.2.13	2007.2.22	人血小坂濃厚凍液(放射線照射) 人赤血球濃厚凍液(放射線照射)	男	60	骨髄痛	B型肝炎	06/09-12 06/08-11	HBsAg(-) (06/07) HBcAb(+) HBcAb(+) HBV-DNA(+) (06/08)	HBsAg(+) (07/01) HBcAb(-) HBV-DNA(+) (08/10/11) HBsAg(-) HBcAb(+) HBcAb(+) HBV-DNA(+) (06/12) HBV-DNA(+) (07/02)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管凍結28本についてHBV-NAT(-)			120単位 32単位	12/29 (11人はHBV関連検査陰性、1人はHBsAb(+)) かつHBcAb(+) かつHBcAb(+)	28本の原料血漿、7本の新鮮凍結血漿を製造。原料血漿は1本で25本であり、新鮮凍結血漿は全てにおいて同種であった。			重篤	未回復		
3-07020	A-06000236	2007.2.20	2007.3.6	新鮮凍結人血漿	男	50	腎疾患	B型肝炎	06/08	HBsAg(-) HBcAb(-) HBcAb(-) (06/08)	HBsAg(+) (07/01)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管凍結2本について実施。(HBV-NAT(-))			4単位	0.2	2本の原料血漿、2本の赤血球MAPを製造。	原料血漿は全て使用済み。赤血球MAPは全て医療機関へ供給済み。	重篤	未回復			
3-07021	A-06000237	2007.2/20	2007.3.6	人赤血球濃厚凍液(放射線照射)	男	80	消化器腫瘍	B型肝炎	06/08	HBsAg(-) (06/07)	HBsAg(+) (08/09)	陰性(輸血前)	保管凍結3本についてHBV-NAT実施。(全てHBV-RNA(-))		・本症例は2月20日のFAX報告後に入手した詳細情報で、劇症肝炎であるという担当医の見解が判明した。 ・患者は10月25日、多臓器不全により死亡、剖検あり。	4単位	0/3	3本の原料血漿を製造。原料血漿は全て確保済み。			重篤	死亡		
3-07023	A-06000241	2007.2.23	2007.3.9	人赤血球濃厚凍液 人血小坂濃厚凍液	男	50	血液腫瘍	B型肝炎	06/06-11 06/07-11	HBsAg(-) (06/08)	HBsAg(+) (07/02)	陽性(輸血後)	保管凍結38本についてHBV-NAT実施。(全てHBV-RNA(-))			30単位 230単位	16/38 (14人はHBV関連検査(-)、1人はHBcAb(+)) かつ HBsAb(+) (当該献血時同種)、 1人は HBsAbのみ (+))。	36本の原料血漿、10本の新鮮凍結血漿を製造。原料血漿は35本確保済み。新鮮凍結血漿は全て確保済み。	原料血漿は1本使用済み。	重篤	未回復			
3-07030	A-06000260	2007.3.6	2007.3.20	人赤血球濃厚凍液(放射線照射)	女	70	消化器腫瘍、貧血	B型肝炎	05/11- 06/08	HBsAg(-) HBcAb(-) HBcAg(+) HBcAb(-) HBcAb(+) (07/02)	HBsAg(+) (07/02) HBcAb(-) (07/03) HBcAg(+) HBcAb(-) HBcAb(+) (07/02)	陽性(輸血後)	保管凍結11本についてHBV-NAT実施。(全てHBV-DNA(-))			14単位	6/11	11本の原料血漿、3本の新鮮凍結血漿を製造。新鮮凍結血漿1本は確保済み。	原料血漿は全て使用済み。新鮮凍結血漿2本は医療機関へ供給済み。	重篤	未回復			
3-07031	A-06000261	2007.3.6	2007.3.20	人赤血球濃厚凍液(放射線照射) 人血小坂濃厚凍液(放射線照射) 人血小坂濃厚凍液HLA(放射線照射)	女	60	骨髄痛	B型肝炎	06/05 06/09-10	HBsAg(-) HBcAb(-) HBcAb(+) (06/05)	HBsAg(+) (07/02) HBcAb(-) HBV-DNA(+) (07/03)	陽性(輸血後)	保管凍結11本についてHBV-NAT実施。(全てHBV-DNA(-))			10単位 50単位 10単位	6/11	11本の原料血漿を製造し、9本確保済み。	原料血漿は2本使用済み。	重篤	未回復			
3-07032	A-06000262	2007.3.8	2007.3.20	人赤血球濃厚凍液(放射線照射)	女	60	腎疾患	B型肝炎	06/10-12	HBsAg(-) (06/09)	HBsAg(+) HBV-DNA(+) (07/01)	陰性なし	保管凍結3本についてHBV-NAT実施。(全てHBV-DNA(-))		医療機関が「感染症の予防および感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づき、所轄保健所に届け出た症例である。 ＜追記1＞当初、医療機関は前時期に透析を行っていた他のHBV感染患者からの院内感染を疑い、ウイルス相関性について調査を行っていたが、否定的な中間報告が得られたため、輸血が原因である可能性も考えられるとして、3/7日に赤に調査を依頼されたもの。なお、患者は(1月30日)にB型肝炎肝炎にて死亡、剖検なし。 ＜追記2＞担当医より「患者と他の1名のHBV-DNAシークエンス検査の結果、院内感染である可能性が非常に高く、輸血液との因果関係は否定された」とのコメントが得られた。以上調査結果から、「副作用-感染症と輸血液との因果関係なし」と考える」との見解が得られた。	4単位	0/3	4本の原料血漿を製造。原料血漿は全て確保済み。		重篤	死亡 (B型肝炎肝炎一種血との関連性なし)			
3-07033	A-06000270	2007.3/12	2007.3.27	人血小坂濃厚凍液(放射線照射) 人赤血球濃厚凍液	男	72	血液腫瘍	B型肝炎	06/07-08 06/07-08	HBV-DNA(-) (06/07) HBcAb(+) (03/06)	HBV-DNA(+) HBsAg(+) (06/11)	調査中	保管凍結7本についてHBV-NAT実施予定。			50単位 4単位	調査中	調査中	調査中	重篤	未回復			
3-07034	A-06000271	2007.3/12	2007.3.27	人血小坂濃厚凍液(放射線照射) 人赤血球濃厚凍液(放射線照射)	女	84	血液腫瘍	B型肝炎	06/08- 07/01 06/08- 06/12	HBsAg(-) (06/12)	HBsAg(+) (07/02) HBV-DNA(+) (07/03)	陽性(輸血後)	保管凍結6本についてHBV-NAT実施。(全てHBV-DNA(-))			20単位 6単位	2/6	6本の原料血漿、1本の新鮮凍結血漿を製造。原料血漿は全て確保済み。新鮮凍結血漿は確保済み。		重篤	不明			

国内輸血例(事前配布からの更新点は赤字で表示)

目録番号	種別番号	FAX受付日	報告受理日	血液成分	供給元	患者	病名	血液検査	検査結果	検査項目	検査結果	検査項目	検査結果	検査項目	検査結果	検査項目	検査結果	検査項目	検査結果	検査項目	検査結果	検査項目	検査結果	検査項目	検査結果	検査項目	検査結果	検査項目	検査結果	検査項目	検査結果	検査項目	検査結果	検査項目	検査結果	検査項目	検査結果	検査項目	検査結果												
3-07036	A-06002713	2007/3/18	2007/3/30	人血小板濃厚液 人赤血球濃厚液	男	15	血液腫瘍	B型肝炎	06/02 06/02	HBsAg(-) (05/05)	HBsAg(+) (07/02)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体7本に ついてHBV-NAT 実施。(全て HBV-DNA(-))	06/07 07/07	50単位 4単位	0/7 (5人はHBV 関連検査(-) 、1人は HBs抗体の みで、当該 献血者にお いては HBV関連検 査(-)であっ た。)	6本の原料血漿、 2本の新鮮凍結 血漿を製造、医 療機関へ供給さ れた。原料血漿の うち、1本は確保 済み。	原料血漿は全て 医療機関へ供給 済み。5本は使用 済み。新鮮凍結 血漿は、全て医 療機関へ供給済 み。	重篤	未回復																															
3-07037	A-07000001	2007/3/19	2007/4/2	人赤血球濃厚液	女	70	関節炎	B型肝炎	06/09	HBsAg(-) (06/06)	HBsAg(+) (07/03) HBV-DNA(+) (07/04)	陽性(輸血後)	保管検体2本に ついてHBV-NAT 実施。(全て HBV-DNA(-))	06/09	4単位	0/2	2本の原料血漿、 2本の新鮮凍結 血漿を製造、全 て確保済み。																																		
3-07039	A-07000003	2007/3/23	2007/4/4	人血小板濃厚液(放射線照射)	男	85	血液腫瘍	B型肝炎	06/02	HBsAg(-) (06/01)	HBsAg(+) (07/03)	陽性	保管検体1本に ついてHBV-NAT 実施予定。	06/02	10単位	0	1本の原料血漿 を製造。使用の 有無を調査予定。																																		
3-07041	A-07000007	2007/3/30	2007/4/13	人赤血球濃厚液(放射線照射) 人赤血球濃厚液 人新鮮凍結血漿	男	80	腎疾患、心疾患等	B型肝炎(疑い)	06/11 06/11 06/11	HBsAg(-) (06/11)	HBsAg(+) (07/03)	調査中	保管検体13本 について、個別 NATを実施したと ころ、12本でHB V-DNA(-)、1 本でHBV-DNA A(+)	06/11 06/11 06/11	6単位 10単位 10単位	調査中 調査中																																			
3-07046	A-07000012	2007/4/18		人赤血球濃厚液(放射線照射) 人赤血球濃厚液 人血小板濃厚液(放射線照射) 人新鮮凍結血漿	男	30	心疾患	B型肝炎	06/07 06/06-09 06/08 06/06- 07/01	HBsAg(-) HBsAb(-) HBV-DNA(-) (06/06)	HBsAg(+) HBsAb(+) HBV-DNA(+) (07/04)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体71本に ついてHBV-NAT 実施。(70本 HBV-NAT(-)、1 本HBV-NAT(+))	06/07 06/08 06/08 07/01	8単位 54単位 30単位 78単位	HBV-DNA(-) 37/70 (31人は HBV関連検 査(-) 3人は HBsAb(+) 、37人は HBsAb(+) 、3人は HBsAbのみ (+) HBV- DNA(+)/1 (HBV関連 検査(-)、個 別NAT実施 予定)	69本の原料血 漿、5本の新鮮凍 結血漿、37本の 赤血球MAP、1本 の洗浄赤血球を 製造、新鮮凍結 血漿は3本確保 済み。	原料血漿は全て 使用済み。新鮮 凍結血漿は2本医 療機関へ供給済 み。赤血球MAP 及び洗浄赤血球 は全て医療機関 へ供給済み。	重篤	未回復																															
輸血後NATで陰性又は 輸血前後で陽性																																																			
3-07019	A-06002035	2007/2/19	2007/3/2	人赤血球濃厚液	男	70	消化器腫瘍	B型肝炎	05/09	HBsAg(-) (05/05)	HBsAg(+) HBsAb(+) HBsAb(+) (07/01)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体4本に ついてHBV-NAT 実施。(全て HBV-NAT(-))	05/09	6単位	3/4	4本の原料血漿、 2本の新鮮凍結 血漿を製造。	原料血漿は全て 使用済み。新鮮 凍結血漿は2本 医療機関へ供給 済み。	重篤	不明																															
輸血によるHCV感染報告例(疑い例を含む。)																																																			
陽転事例																																																			
3-08192	A-06002039	2006/12/28	2007/1/10	人血小板濃厚液(放射線照射) 人赤血球濃厚液(放射線照射)	男	70	骨腫瘍	C型肝炎	05/12 05/12- 06/01	HCv-Ab(-) (05/10) HCv-RNA(-) (05/12、 06/01)	HCv-Ab(+) HCv-RNA(+) HCv-Ab(+) HCv-RNA(+) (06/01)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体13本に ついてHCv- NAT(-)	05/12 05/12 06/01	30単位 16単位	8/13	12本の原料血 漿、3本の新鮮凍 結血漿を製造。	原料血漿は全て 使用済み。新鮮 凍結血漿は全て 医療機関へ供給 済み。	重篤	未回復																															

国内輸血例(事前配布からの更新点は赤字で表示)

日付番号	識別番号	FAX受付日	報告受領日	一般名	患者性別	年齢	原疾患	輸血理由	輸血年月	輸血前検査(年月)	輸血後検査(年月)	献血者性別 NAT	献血者種別 NAT	既献血者種別	備考	使用単位	献血者再検査	同一献血者献利回数	同一献血者献利(使用年)	感染性検査	結果	献血者共通及の場合の献血者検査(抗体、NAT、DNA検査)	献血者共通及の場合の献血者の検査
3-07001	A-06000210	2007.1.4	2007.1.18	人赤血球濃厚液(放射線照射)	女	40	肝疾患、貧血	C型肝炎	05/10	HCV-Ab(-) (05/09) HCV-Ab(+) HCV-RNA(-) (05/10)	HCV-Ab(+) (08/08) HCV-RNA(+) (08/10) HCV-Ab(+) HCV-RNA(+) (08/11)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体1本についてHCV-NAT(-)		担当医より「副作用・感染症と輸血血液との因果関係なし」とのコメントあり。	2単位	1/1	1本の原料血漿を製造。	原料血漿は使用済み。	非重篤	未回復		
3-07008	A-06000219	2007.2.2	2007.2.15	人赤血球濃厚液	男	80	痔瘻	C型肝炎	06/07	HCV-Ab(-) (06/07) HCV-RNA(-) (06/07)	HCV-cAg(+) HCV-Ab(+) (07/01) HCV-RNA(+) (07/01)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体3本についてHCV-NAT(-)			4単位	1月3日	3本の原料血漿、1本の新鮮凍結血漿を製造。原料血漿は全て確保済み。	新鮮凍結血漿は医療機関へ供給済み。	重篤	未回復		
3-07014	A-06000227	2007.2.8	2007.2.22	人赤血球濃厚液(放射線照射)	女	70	腎疾患	C型肝炎	08/09	HCV-Ab(-) (08/08) HCV-Ab(-) (HCV-RNA(-) (08/08)	HCV-Ab(+) (07/02) HCV-Ab(-) (HCV-RNA(-) (07/02)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体1本についてHCV-NAT(-)			2単位	0/1	1本の原料血漿を製造し、確保済み。		重篤	未回復		
3-07029	A-06000259	2007.3.5	2007.3.19	人赤血球濃厚液(放射線照射)	女	50	骨折、出血	C型肝炎	08/11-12	HCV-Ab(-) (08/11)	HCV-Ab(+) (07/02)	陰性(輸血前)	保管検体4本についてHCV-NAT実施。(全てHCV-RNA(-))			6単位	0/4	4本の原料血漿を製造し、全て確保済み。		非重篤	未回復		
3-07038	A-07000602	2007.3.20	2007.4.2	人血小坂濃厚液(放射線照射)	男	88	骨折	C型肝炎	06/10	HCVコアAg(-) (06/10)	HCVコアAg(+) (07/03)	陽性(輸血後)	保管検体1本についてHCV-NAT実施。(HCV-RNA(-))		調査結果を受けて、担当医から副作用・感染症と輸血血液との因果関係なしと考える。	10単位		献血者一人は献血に再来。(HCV関連検査(-))	1本の原料血漿を製造。原料血漿は確保済み。	非重篤	回復		
輸血後NATで陰性又は輸血前後で陽性																							
3-07022	A-06000238	2007.2.20	2007.3.6	人赤血球濃厚液(放射線照射) 人赤血球濃厚液	女	50	腎疾患	C型肝炎	06/03 06/02	HCV-Ab(-) (06/01)	HCV-Ab(+) (06/12) HCV-RNA(+) (07/01)	陽性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体4本についてHCV-NAT実施。(全てHCV-RNA(-))		上記調査結果を受けて、担当医から副作用・感染症と輸血血液との因果関係なしと考えるとの見解が得られた。	2単位	3/4 (HCV関連検査(-))	3本の原料血漿、3本の新鮮凍結血漿を製造。	原料血漿は全て使用済み。新鮮凍結血漿は全て医療機関へ供給済み。	重篤	未回復		
3-07024	A-06000242	2007.2.27	2007.3.9	人赤血球濃厚液(放射線照射)	女	80	消化器腫瘍	C型肝炎	05/07	HCV-Ab(-) (05/07)	HCV-Ab(+) (06/10) HCV-Ab(+) (07/01)	陰性(輸血後)	保管検体3本についてHCV-NAT実施。(全てHCV-RNA(-))			6単位	3/3	3本の原料血漿、2本の新鮮凍結血漿を製造。	原料血漿は全て使用済み。新鮮凍結血漿は全て医療機関へ供給済み。	非重篤	不明		
輸血による細菌等感染報告例(疑い例を含む。)																							
3-07003	A-06000212	2007.1.10	2007.1.24	人赤血球濃厚液(放射線照射)	女	80	肝疾患、腎疾患、糖尿病	細菌感染	08/12	-	院内血培にてMRSA検出	検体なし	同一採血管号の血漿2本で無菌試験実施(適合)			4単位	-	1本の新鮮凍結血漿を製造。原料血漿は全て確保済み。新鮮凍結血漿は確保済み。		重篤	死亡(乳がんステージに よって死亡。本例との関連性不明)		
3-07010	→取り下げ	2007.2.5		人赤血球濃厚液(放射線照射)	男	70	消化器腫瘍	細菌感染	07/02	-	当該輸血前日の院内血培にて陽性	-	投与中止の当該製剤で無菌試験実施予定		・本症例の患者は上記と同一の患者 ・担当医が細菌感染を疑っていないことが判明したため、FAX報告取り下げ	2単位	-	調査中		重篤	回復		
3-07009	A-06000219	2007.2.2	2007.2.15	人赤血球濃厚液(放射線照射) (採血11日)	男	70	消化器腫瘍	細菌感染	07/01	-	院内血培にて陽性 Staphylococcus属が検出された。	非溶血性副作用関連検査 ・抗血漿タンパク質抗体検査 陰性 ・血漿タンパク質欠損検査 欠損なし	投与中止の当該製剤で無菌試験実施。無菌試験結果(適合)		本症例は1月31日に血圧低下、皮疹として情報入手し、30日報告の準備を進めていたが、2月2日に患者血培が陽性になったとの追加情報を入手したため、感染症例として報告した。	2単位	-	1本の原料血漿を製造。原料血漿は確保済み。		重篤	回復		
3-07015	A-06000228	2007.2.9	2007.2.22	新鮮凍結血漿-LP	女	7	血液腫瘍	細菌感染	07/01	-	院内血培にて表皮ブドウ球菌検出	非溶血性副作用関連検査 ・抗血漿タンパク質抗体検査 陰性 ・血漿タンパク質欠損検査 欠損なし ・抗HLA抗体検査 陰性 ・クラスII抗体陰性 (DRαweak)	同一採血管号の血漿1本で無菌試験。当該製剤でセグメントチューブで細菌培養試験結果表皮ブドウ球菌検出されず。			2単位	-	1本の新鮮凍結血漿を製造し、確保済み。		重篤	軽快		
3-07017	A-06000233	2007.2.19	2007.3.2	人赤血球濃厚液(放射線照射) 新鮮凍結人血漿 人血小坂濃厚液(放射線照射)	女	1ヶ月	超低出生体重児	細菌感染	07/01-02 07/02 07/02	IgM-CMV-Ab(-) (07/01)	IgM-CMV-Ab(+) (07/02)	-	保管検体7本についてCMV-Ab検査予定			5単位 1単位 5単位	-	4本の原料血漿、3本の新鮮凍結血漿、1本の赤血球MAPIを製造。原料血漿は使用の有無を調査中。新鮮凍結血漿は2本確保済み。	新鮮凍結血漿は1本医療機関へ供給済み。赤血球MAPIは医療機関へ供給済み。	重篤	未回復		

試行的 HEV20 プール NAT 実施状況について

(輸血後 HEV 感染の予防対策)

1. 試行的 HEV20 プール NAT 実施状況

北海道赤十字血液センター管内
調査期間:平成 17 年 1 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日

	献血者数	HEV-RNA 陽性	陽性率
H17. 1～H18. 2 ^{*1}	341, 174	45	1/7, 582
H18. 3～H19. 3 ^{*2}	294, 255	27	1/10, 898
合計	635, 429	72	1/8, 825

*1 北海道センターにて NAT 実施(ALT 高値、検査不合格検体も含む)

*2 血漿分画センターにて NAT 実施(ALT 高値、検査不合格検体は除く)

2. HEV-RNA 陽性献血者の内訳

別紙

2. HEV-RNA陽性者の内訳

調査期間: 2005年1月1日～2007年3月31日

No.	採血日	年齢	性別	ALT (IU/L)	HEV抗体		HEV RNA	問診該当※1	喫食歴調査		遊及対象供給製剤	受血者情報
					IgM	IgG			肉の種類	食べ方		
1	2005/01/04	32	M	57	-	-	+	無	不明レバー	生	無	
2	2005/02/07	38	F	11	-	-	+	無	ブタレバー	生	無	
3	2005/02/13	41	M	103	-	-	+	無	回答なし		無	
4	2005/03/25	65	F	17	-	-	+	無	回答なし		無	
5	2005/03/27	26	M	38	-	-	+	有	不明レバー(問診時)	生	有	赤血球製剤破壊のため院内廃棄
6	2005/04/10	54	F	20	-	-	+	無	ウシ精肉	半生	無	
7	2005/04/15	59	F	16	-	-	+	無	ブタホルモン、シカ精肉	十分加熱	無	
8	2005/04/15	35	F	16	-	-	+	無	シカ精肉、ウシ精肉 ウシレバー、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	無	
9	2005/04/20	25	M	24	+	+	+	無	ウシレバー、ウシ精肉 ウシホルモン、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	有	感染なし
10	2005/04/28	22	M	44	-	-	+	無	回答なし		無	
11	2005/06/07	42	M	24	+	+	+	無	ウシ精肉 ウシホルモン、ブタ精肉、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	有	原疾患により死亡
12	2005/06/22	51	M	52	-	-	+	無	回答なし		無	
13	2005/07/03	58	M	219	+	+	+	無	不明レバー、ブタ精肉	十分加熱	無	
14	2005/07/05	22	M	23	+	-	+	無	回答なし		無	
15	2005/07/05	38	M	15	-	-	+	無	ブタホルモン、ウシ精肉、ブタ精肉	半生	無	
16	2005/07/13	24	M	19	-	-	+	無	ウシレバー	生	有	原疾患により死亡
17	2005/09/02	33	M	49	-	-	+	無	ウシ精肉 ヒツジ精肉 ブタホルモン、ブタ精肉	生 半生 十分加熱	無	
18	2005/09/01	29	F	100	+	+	+	無	ウシホルモン、ヒツジ精肉 ウシレバー、ウシ精肉、ブタ精肉	半生 十分加熱	無	
19	2005/09/20	42	M	31	-	-	+	無	ブタホルモン、不明レバー、ヒツジ精肉	十分加熱	有	HEV感染(H17.11.1 運営委員会報告済み)
20	2005/09/27	20	F	10	-	-	+	無	ウシ精肉、ブタホルモン、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
21	2005/10/21	41	M	12	-	-	+	無	回答なし		無	
22	2005/10/25	44	F	38	+	+	+	無	ウシ精肉、ブタ精肉	十分加熱	無	
23	2005/11/07	30	F	21	-	-	+	無	ブタホルモン、ウシ精肉、ヒツジ精肉 ブタホルモン、ウシ精肉、ブタ精肉、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	無	
24	2005/11/07	31	F	12	+	+	+	有	ブタレバー、ブタホルモン、ウシ精肉	十分加熱	無	
25	2005/11/20	28	M	47	+	+	+	有	ウシレバー、ウマ精肉 ブタホルモン、ウシ精肉、ブタ精肉	生 十分加熱	無	
26	2005/11/29	35	F	333	+	+	+	有	回答なし		無	
27	2005/12/13	42	M	30	-	-	+	有	ウシ精肉、ヒツジ精肉 不明レバー、ブタ精肉	半生 十分加熱	有	原疾患により死亡
28	2005/12/13	30	M	11	-	-	+	有	不明レバー	十分加熱	有	HEV感染(H18.01.26 運営委員会報告済み)
29	2005/12/22	62	F	14	-	-	+	無	回答なし		無	
30	2005/12/27	42	F	14	-	-	+	無	回答なし		無	

No.	採血日	年齢	性別	ALT (IU/L)	HEV抗体		HEV RNA	問診該当※1	喫食歴調査		遊及対象供給製剤	受血者情報
					IgM	IgG			肉の種類	食べ方		
31	2006/01/02	22	F	12	-	-	+	有	ウシレバー、ウシ精肉	十分加熱	無	
32	2006/01/06	68	M	23	-	-	+	無	ウシレバー、ブタホルモン、ヒツジ精肉	半生	無	
33	2006/01/13	36	M	42	-	-	+	無	ウマ精肉、不明レバー ウシ精肉、ヒツジ精肉 ウシレバー、ブタ精肉、ブタホルモン	生 半生 十分加熱	無	
34	2006/01/18	53	M	238	+	+	+	有	ウシレバー、ウシホルモン	十分加熱	無	
35	2006/01/13	31	M	43	-	-	+	有	不明レバー ブタ精肉、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	無	
36	2006/01/17	48	M	25	-	-	+	無	回答なし		無	
37	2006/01/25	52	M	25	-	-	+	無	不明レバー、ヒツジ精肉	十分加熱	有	輸血後89日現在、HEVマーカーの陽転は見られず追跡調査終了
38	2006/01/30	39	F	22	-	-	+	無	回答なし		無	
39	2006/01/30	25	M	32	-	-	+	有	ウシ精肉、ウシホルモン、ブタ精肉	十分加熱	無	
40	2006/02/02	39	F	35	-	+	+	有	ウシレバー ウシレバー ヒツジ精肉	生 半生 十分加熱	無	
41	2006/02/07	57	M	13	-	-	+	無	不明	不明	無	
42	2006/02/07	40	F	172	+	+	+	無	ウシ精肉	十分加熱	無	
43	2006/02/17	39	M	28	-	-	+	無	ブタホルモン、ブタレバー、ブタガツ、ヒツジ精肉 イノシン精肉、ブタ精肉	半生 十分加熱	無	
44	2006/02/20	58	M	22	-	-	+	無	ヒツジ精肉	十分加熱	無	
45	2006/02/21	45	M	30	-	-	+	無	ウシ精肉 ブタ精肉、ブタレバー、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	無	
46	2006/03/01	46	F	15	-	-	+	無	回答なし		無	
47	2006/03/01	50	F	29	-	-	+	無	回答なし		無	
48	2006/03/02	54	M	47	+	+	+	無	ウシ・ブタ(精肉、レバー、ホルモン)、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
49	2006/03/27	40	F	12	-	-	+	無	回答なし		無	
50	2006/04/01	31	F	16	-	-	+		ヒツジ精肉	半生	無	
51	2006/04/04	30	F	14	-	-	+		ブタ精肉、不明レバー	十分加熱	無	
52	2006/04/12	38	M	45	+	+	+		ブタレバー、ウシ精肉、ブタ精肉、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
53	2006/04/18	21	M	26	-	-	+		ウシ精肉、ウシホルモン ウシ精肉、ウシホルモン	半生 十分加熱	無	
54	2006/04/22	28	M	14	+	+	+		回答なし		無	
55	2006/04/26	46	M	19	-	-	+		ブタレバー	半生	無	
56	2006/05/18	62	M	27	-	-	+		ヒツジレバー	十分加熱	無	
57	2006/07/07	17	M	33	-	-	+		回答なし		無	
58	2006/07/11	34	F	10	-	-	+		回答なし		無	
59	2006/07/12	21	F	27	-	-	+		回答なし		無	
60	2006/07/22	49	M	46	+	-	+		ウシ精肉、ブタ精肉、ブタホルモン、ブタレバー	十分加熱	無	

No.	採血日	年齢	性別	ALT (IU/L)	HEV抗体		HEV RNA	問診 該当 ※1	喫食歴調査		遊及対象 供給製剤	受血者情報
					IgM	IgG			肉の種類	食べ方		
61	2006/08/01	62	M	18	-	-	+		ブタホルモン、ウシ精肉、ブタ精肉、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
62	2006/09/06	44	F	14	-	-	+		喫食歴なし		無	
63	2006/09/29	68	M	15	-	-	+		ブタ精肉、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
64	2006/10/21	29	M	22	-	-	+		調査中		無	
65	2006/11/19	48	M	58	-	-	+		ウシ精肉、ブタ精肉	十分加熱	無	
66	2006/11/23	54	M	18	-	-	+		回答なし		無	
67	2006/12/01	43	M	55	-	+	+		ブタ精肉	十分加熱	無	
68	2006/12/04	60	M	46	+	+	+		ウシ精肉	十分加熱	無	
69	2006/12/04	47	M	40	+	+	+		ウシ精肉、ウシホルモン	十分加熱	無	
70	2007/03/01	33	M	41	-	-	+		ウシレバー	生	無	
71	2007/03/15	42	M	32	-	+	+		ブタレバー、ブタホルモン	半生	無	
72	2007/03/27	55	M	30	-	-	+		不明レバー	十分加熱	無	

※1: 問診喫食歴調査内容

05年 1月1日～05年10月31日: 「過去3ヶ月以内にブタ、シカ、イノシシあるいは動物種不明の生肉、生レバーの喫食歴」

05年11月1日～06年03月31日: 「過去3ヶ月以内に生肉(半生も含む)、レバー、ホルモン(動物種、焼き方を問わず)の喫食歴」、なお本調査は06年03月31日をもって終了